

商店街の真ん中に生まれた障害者就労支援の場 ～人・商店街・地域を生かした取組～!!

！ここがポイント

社会的弱者のための取組みであると同時に商店街活性化の担い手確保のための取組でもあり、社会福祉協議会などの福祉等団体と連携して、高齢化社会に対応。



上新町商店街

【取り組みの背景】

上新町商店街は、旧八尾町（現在は富山市と合併）の中心商店街として発展していたが、車社会の進展、消費者のライフスタイルの変化などにより、厳しい環境におかれていた。

全国的に有名な祭り「おわら風の盆」期間以外のにぎわい創出が課題であり、通年のにぎわいを目指し、平成15年からテントショップが並ぶ「なりひら風の市」を開催。そして、障害者の経済的基盤づくりを考えていた社会福祉法人「フォーレスト八尾会」と空き店舗に頭を悩ます商店街の意向が一致し、連携するに至った。

【取り組みの概要・経過】

○社会福祉法人と商店街が連携したコミュニティ

施設「工房 風のたより」:

商店街の目抜き通りの空き店舗を活用して、障害者の働く場であると同時に、観光客を呼び込むふれあいの場、地域の人たちの交流の場の機能を有するコミュニティ施設である「工房 風のたより」を、社会福祉法人が商店街と連携して平成16年3月にオープン。コミュニティ施設の運営を継続させるため、経済的基盤づくりの一環として、桑をテーマ（かつて当地は養蚕で栄えた）にした「フード（風土）づくり」事業の本格展開である、桑菓子工房（洋菓子店）を開設。施設には、土産品や菓子づくりなどの工房や製作した商品の販売、談話用喫茶コーナー、町の情報を発信するインフォメーションコーナーなどがある。

○観光物産館「風の館（やかた） なりひら」

商店街独自では、観光物産館「風の館 なりひら」を運営し、冬期を除き毎月開催しているテント市「なりひら風の市」とともに、通年観光の取組みを展開している。また、土産物品を中心に地元産品を全国発信するため、ウェブショップを運営し、ネット上でも通信販売を行っている。

この観光物産館も八尾町商工会のTMO構想に基づいた空き店舗活用の一環であり、平成11年から継続して運営されてきている。隣接して、実験店舗や休憩所、美術館なども徐々に集積してき

た。さらに、平成19年度からは周辺地区が調和を図った景観形成を進めることを目的として、市によって「まち並み修景等整備事業」の対象地区として指定され、ますます雰囲気の充実した地域となることが期待されている。

【取り組みの効果】

工房は、観光客が気軽に立ち寄れるふれあいと情報の拠点となり、商店街のイベントへの積極的な参加などにより、にぎわいづくりに効果をあげている。工房の活動がマスコミに取り上げられることにより、商店街の認知度が向上。また、地域の人たちの交流の場になり、まちづくりの話し合いが活発になるなど、活動拠点にもなっている。

【今後の課題など】

「おわら風の盆」開催期間（8月前夜祭、9月1日～3日開催）以外の通年の来街者、利用者の増加が必要である。

【上新町商店街

（上新町商工振興協同組合）】

所在地：富山県富山市

会員数：56名

店舗数：48店舗

商店街の類型：地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



井山 泰樹（中央）

（上新町商工振興協同組合理事長）

川倉 敏信（左）

（上新町商工振興協同組合前理事長、なりひら風の市実行委員長）

若い頃から商店街活動に積極的にに関わり、その長い経験を生かして、新しい取組を柔軟に受け入れ、実現化を図ってきた。

【うちの商店街、ここが自慢】

社会福祉法人と商店街が連携した「工房風のたより」、観光物産館「風の館 なりひら」、定期市「なりひら風の市」で、通年のにぎわい創出へ。



カラフルなテントが立ち並ぶ「なりひら風の市」



「風の館 なりひら」



「工房 風のたより」

高岡版家守事業で空き店舗を再生!!

※家守事業:大家に代わり入居者の誘致や育成、マネジメントを行う

！ここがポイント

まちづくり会社が商店街の空き店舗対策に本格的に乗り出した。今後、商店街全体のマネジメントを担い、所有と利用の分離へと発展させていく、そのきっかけとなるもの。



末広開発が管理、運営する再開発ビル
「ウイング・ウイング高岡」

【取り組みの背景】

中心商店街では、地場産業である工芸クラフトなどの展示ギャラリー、喫茶、交流サロンとして「わろんが」や工芸職人の実演コーナーのある「工房手わざ」など、空き店舗を活用した事業を行ってきた。しかしながら、個店をみると、店主の高齢化、後継者不足、経営不振等の理由により、空き店舗が増加傾向にある。これら空き店舗は所有者の賃貸の意志が全くないものもあるが、改修費用等資金面で貸せない理由を持つものも多い。

こういった空き店舗の解消を図るためには、単なる出店者への支援だけではなく、店舗併用住宅でもともと商売されていた方の閉店後の店舗を賃貸可能物件へと改修するとともにし、こういった

物件を増やすことが重要であり、その対策が必要。そこで、中心市街地のまちづくりを担う、まちづくり会社がその対策に乗り出すこととなった。

2009年は市が開町400年を迎える年であり、にぎわい創出にむけたイベントにも力を入れているところである。

【取り組みの概要・経過】

高岡市や高岡商工会議所と連携し、高岡版家守事業と称し、本格的に空き店舗再生事業に乗り出すこととなった。その第一弾事業として、公益法人（財団法人高岡地域地場産業センター）のアンテナショップを開設した。（平成20年12月11日オープン）

高岡版家守事業の仕組み：

- 5年間入居することを条件に、大家に対して店舗併用住宅の賃貸物件向け改修を促すとともに、賃料引き下げを依頼。（市の開業支援制度を活用）
- 入居者（今回の事業では、公益法人）は、高岡市の中心市街地活性化基本計画で取り組んでいる方針に則り、高岡のものづくり文化を反映した国内外で評価の高い最新のクラフトを取り扱うショップ「D. front」を開設。（県の支

援制度を活用)

○まちづくり会社は、大家、入居者の出店相談等に応じるとともに、入居者の改修費を一時的に負担することにより、入居者の初期投資費用を圧縮。

○大家及びまちづくり会社は、入居者の一定期間（５年間）の入居により、初期投資費用の回収は可能。

こうした仕組みを構築し、中心市街地の空き店舗を再生するため、大家と入居者の間にまちづくり会社が介在することにより、容易に出店できる環境を生み出す。

その第一弾事業として、「高岡らしい」まちづくりを進めるため、高岡の伝統・地場産業であるクラフトに関するオンリーワン、ナンバーワンの店舗を開設した。これを契機に、今後、商店街の空き店舗再生に向けたスピードアップを図っていく。



最新クラフトショップ「D. front」

【取り組みの効果】

実質的な空き店舗の解消と高岡らしい店舗の創出を実現。

【今後の課題など】

他の空き店舗へ波及できるよう、他の空き店舗再生システムも勘案しながら、継続・発展的に取り組んでいくことが必要。

【末広開発(株)（まちづくり会社）】

所在地：富山県高岡市

資本金：４億５６００万円

店舗数：１７３店舗（中心４商店街）

商店街の類型：広域型商店街

URL: www.takaoka-st.jp/

【この商店街にこの人あり】



中村 隆

（末広開発株式会社 まちづくり事業部部長）
まちづくり会社は、会議所、市内企業等からの出向者も含め、総勢１１名で構成され、商店街や行政との連携を密にし、各種イベントの開催や空き店舗への開業支援等、多方面にわたり活動している。そのまちづくり事業を積極的に展開する牽引役となっているのが、中村氏である。

【うちの商店街、ここが自慢】

大がかりなイベント開催から空き店舗の開業支援まで、商店街活性化に向けた様々な事業の推進役となるまちづくり会社の担う役割は大きく、高岡の中心市街地のまちづくりのコアを担う存在である。

武蔵に四つ葉を育てりっぱな花を咲かせよう ～「近江町いちば館」の誕生で 武蔵周辺がにぎわいスポットに～!!

！ここがポイント

近江町再開発を契機として、マンション新住民を呼び込む、地域ぐるみで組織を立ち上げるなど、にぎわい創出、再生への機運が高まる。



近江町再開発事業 完成間近

【取り組みの背景】

武蔵地区商店街は、武蔵ヶ辻交差点を中心に四つのブロックで構成された、金沢市中心市街地の片翼を担う一大商業集積地となっている。近年、周辺に住居・商業複合ビルやホテルが建設され、隣接する近江町市場再開発ビルの完成により、武蔵ヶ辻の四つ角が数十年ぶりに揃い芽ができた。地下道の改造工事も行なわれ、地下道を通じて交互に行き交うことができるなど、武蔵地区の活力向上が期待されている。これに呼応して自分たちの地域を自分たちで再生しようという機運が盛り上がる。

【取り組みの概要・経過】

○「近江町いちば館」の誕生

「金沢市民の台所」と呼ばれる近江町市場で長い年月をかけて取組んできた再開発ビルが完成した。所有と利用を分離し、新たなテナントや公共施設も加わり、ますます利便性が高まる。（平成21年春グランドオープン）また、施設オープンに合わせ、近江町市場では、これまで日曜日を定休日にしていたところ、来街者ニーズに対応し、日曜日営業をスタートさせた。

○「武蔵にぎわいうぽ」発足

再開発ビル1階のアトリウム（中庭）整備、地下道「むさしクロスピア」の広場や隣接の百貨店との連絡通路沿いにショーケースを設置するなど、滞留性と回遊性を高めるためのハード整備を行っている。（平成21年春完成）

この新たに誕生する中庭や地下広場などの効果的活用を検討するため、「武蔵にぎわいうぽ」と称する組織を発足させた。周辺商店街組織、地区町会連合会などが参加し、地域ぐるみで活性化に取り組んでいく。

○地域コミュニティ機能の強化

近年、近隣や地区内にマンションの立地が相次

ぐ中、武蔵商店街と尾張町商店街が主導で、地区の商店街にも声かけをし、マンションの新住民に対して、地域コミュニティの重要な担い手としての商店街をアピールするとともに、商店街やお店に足を運んでもらえるよう、集い交流するイベント「武蔵北國街道ふくろう縁日」を実施。各店自慢の逸品等の販売やステージパフォーマンス等で盛り上げている。

【取り組みの効果】

- ・近江町の日曜営業開始により、武蔵地区の商店や商業施設にも日曜営業の影響、にぎわいが波及している。
- （来街者調査データ（平成20年10月）では、金曜日は12,000人、土曜日は16,000人であったが、日曜営業開始日の12月7日はイベントの実施や積極的PRの効果もあり、20,000人を超えるものであった。これまでは、来街者のうち、観光客が約3割を占めていたが、12月7日は8割が市内からの来街であり、近江町市場商店街振興組合が実施した新聞、TV、バス広告などの広報効果が高かったと言える。）
- ・ふくろう縁日の共同開催とマンション住民（新住民）への働きかけで、個店への問い合わせや商店街での利用者が増加している。

【今後の課題など】

武蔵にぎわいうボが近江町再開発事業を機に、にぎわい創出に向けた取り組みを具体化していくのはこれからである。近江町市場の足元のみならず、各商店街へ足を運んでもらえるような取り組みにつなげていくことが必要である。

【武蔵地区商店街（武蔵商店街、近江町市場商店街、尾張町商店街、横安江町商店街、彦三商店街）】

所在地：石川県金沢市

会員数：363名

店舗数：363店舗

商店街の類型：広域・地域型商店街

【この商店街にこの人あり】



中島 祥博

（武蔵活性化協議会 会長、武蔵にぎわいうボ 会長、武蔵商店街振興組合 理事長）

近隣の商店街との連携協働を働きかけ、武蔵地区一体とした広域的商店街でまちの活性化に果敢に挑戦。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街が良きコーディネーターとなり、地域の人たちとの交流や他商店街との連携協働などに団結して取り組むことによって人の輪が出来上がっており、商店街・地域の賑わい創出と活性化に積極的に取り組んでいる。

観光・漆器産業との協調による、 歴史と文化に出会えるまちづくり!!

！ここがポイント

観光資源を活用し、一店舗2業種展開といった個店の経営努力により、個店の魅力向上を図っている。



山中温泉南町ゆげ街道

【取り組みの背景】

開湯1300年を誇り、古くから湯治客に愛される温泉街として発展してきたが、モータリゼーション化のなか、道幅も狭く歩道も未整備であったため、危機感をもった沿道の商店主らが「南町ゆげ街道振興会」を組織し、平成5年頃より道路拡張工事に合わせ沿道の街並みの一体的な整備の検討が進められ、平成15年に「南町ゆげ街道」がオープニングを迎えた。（平成14年6月にまちづくり月間 国土交通大臣賞、平成16年10月に都市景観大賞を受賞）

この街並み整備に際し、山間の温泉地商店街の厳しい状況を打開すべく、商店街に観光客を呼び込む取り組みを始めた。

【取り組みの概要・経過】

○1店舗2業種展開

地元基幹産業である観光・漆器産業と協調した個性的な商店街づくりに向け、商店街の営業方針として山中漆器を中心に一店舗2業種事業を展開し、地元の人にも親しまれ、観光客の方にも自分の家に帰ってきたような、ほっとした気持ちにさせる商店街を目指している。

例として「山中漆器と加賀漬物」、「オルゴールと山中漆器」、「酒類と山中漆器、喫茶」、「八百屋とペーパークラフト」など。

○商店街のギャラリー化

山中漆器や山中節という伝統工芸・伝統芸能にまちなかで触れられるよう、商店街のギャラリー化に取り組んでいる。景観形成自主基準を設定し、建物の高さ制限・カラー統一した和風の店舗づくりを行った。

○観光拠点施設「山中座」

平成9年度より、商店街空き店舗対策モデル事業として、「山中節の館」を期間限定にて実験店舗として開設。その後、常設館としての要望が高まり、平成14年11月に山中町が場所を元湯の旅館跡に移すとともにロビーを山中漆器の粋を集めたしつらえとし、観光インフォメーション機能も備えた「山中座」を設け伝統芸能「山中節四季の舞」が上演されている。「山中座」は山中温泉のシンボルである菊の湯と相対し、山中温泉の中心に位置し温泉街活性化の核となっている。また、今年で5回を数える山中節道中流しが山中座を中心に催されている。

○ゆげ街道花の道事業

10月14日より11月5日まで、ゆげ街道一円にハン

ギングバケット作品などを約100点並べ、また年末・年始にはミニ門松を店頭に並べるゆげ街道花の道事業などに取り組んでいる。

○エコポイントカード事業

山中商工会が取り組んでいる、エコとポイントをミックスしたポイントカード事業に積極的に参加している。

さらに、商店街の枠を超え、山中地区をはじめ山代、大聖寺、片山津、動橋などから若手店主が集まりお互いの店舗の魅力を情報発信し、加賀地区一円にその輪を広げるための方策の検討を始めた。

【取り組みの効果】

商店街を散策する観光客が増加しており、その半数近くがゆげ街道を訪れている。南町ゆげ街道の歩行者の通行量をみると、平成20年は平成10年に比べ約2.5倍に増えている。

【今後の課題など】

ハード面では一応完成したが、今後はソフト面の充実が課題



沿道が花で飾られ
華やかに



【山中温泉南町ゆげ街道振興会】

所在地：石川県加賀市

会員数：28名

店舗数：25店舗

商店街の類型：（観光型）商店街

【この商店街にこの人あり】



櫻井比呂之（左）

（南町ゆげ街道整備協議会会長、観光物産販売）



久保出久一（右）

（南町ゆげ街道振興会前会長、酒店経営）

「行政を引き込むしっかりしたコンセプトと、顧客と接する機会の多いおかみさんの力が重要」との考えのもと、活性化事業の推進役を担っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

山中温泉の名勝地「こおろぎ橋」と「あやとりはし」の間にあり、ゆっくりゆったりと散策できる商店街。（景観形成自主基準の制定、一店舗2業種によるおもてなし）

山中温泉にゆっくりと滞在していただき、豊かな自然と温泉で心も体も癒し、商店街を散策する事により元気を取り戻す、そんな温泉観光地を観光業者と共に目指します。

柳ヶ瀬 新生!!

～「大衆演劇の街」に一新へ～

! ここがポイント

活性化を担うキーパーソンが率いる広域商店街。組織改革や個店経営強化など次々と着手してきた。新生「柳ヶ瀬」を目指し、大衆演劇を核とした取組始動。



岐阜柳ヶ瀬商店街

【取り組みの背景】

柳ヶ瀬商店街のメイン通り「柳ヶ瀬本通り」に、平成19年12月に大衆演劇場「豊富座」がオープンした。明治時代に芝居小屋として創設され、平成14年に閉鎖された映画館を改装し、大衆演劇場に再生。月替わりで公演する劇団目当てに、女性を中心に県外からも多くのファンが柳ヶ瀬商店街を訪問するようになった。この集客を商店街活性化につなげようという動きが出始めている。

【取り組みの概要・経過】

○実践セミナーで売上げアップ

商店街を活性化させるには、一つ一つの個店もがんばらないといけないとの思いから、個店の意識改革を進め、個店に力をつけてもらおうと、実

践セミナーを開催。有料参加とし、真にやる気のある店主に参加を呼びかけたところ、実践セミナーで学んだPOPで、販売力アップにつながった店（パン屋、美容院など）が出るなど、セミナー効果が出てきている。

○大衆演劇（劇団）との連携

さまざまな商店街のイベントにおいて、公演中の劇団員が踊りの披露や練り歩きなどを行い、商店街を大いに盛り上げている。また、幟や公演チラシの掲示など商店街が劇場（劇団）を支援。さらに、商店街は、大衆演劇（劇団）を核にして、集客を高めるため、大衆演劇祭などの継続的な取組みを企画している。



○無料情報誌の発行

柳ヶ瀬地区で活動する市民グループ（ひとひとの会）が、劇場にやってくるお客に商店街利用を

促進するため、観劇客の視点による商店街マップを作成・配布し、観覧客に個店へ足を運んでもらえるよう誘っている。このマップ作りは行政支援を得ず、自主採算で行なえるよう個店をスポンサーとしており、個店に対しては、マップを活用していかに関係発信するかなどアドバイスをし、個店情報を充実させることで商店街全体の魅力を高める工夫をしている。ひとひとの会は、商店街にとって強力な助っ人である。

○情報ステーション

平成20年には、財団法人岐阜市にぎわいまち公社が、柳ヶ瀬本通りに空き店舗を活用した情報発信拠点「柳ヶ瀬あい愛ステーション」を開設した。安心して遊べる親子ふれあいスペースや買い物途中での休憩コーナー、ギャラリースペースを備え、コミュニティ機能を増進している。

【取り組みの効果】

豊富座による集客効果を活用しようと、個店単位でも関連商品を売り込む動きが出てきている。このような中、行政、商店主、専門家などの構成による「柳ヶ瀬本通り千客万来計画準備会」と銘打ち、平成20年12月に組織を発足し、大衆演劇場を核としたまちづくりに取り組んでいる。

【今後の課題など】

豊富座の観客のニーズを踏まえた商品やサービスの提供を充実し、集客効果を十分に活用することが必要である。



芝居小屋の装飾を考案中のアーケードと通り

【岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会】

所在地：岐阜県岐阜市

会員数：420名

商店街の類型：広域型商店街

【この商店街にこの人あり】



辻 英二

(岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会 理事長)
理事長就任後の最初の仕事が、連合会の組織改革に乗り出したことである。事業委員会、財務委員会など5つの委員会を設置し、責任と役割を明確にするため、組織体制を整備した。次ぎに、個店の意識改革を進め、個店に力をつけるため、実践セミナーを開催。有料参加とし、真にやる気のある店主へ参加を呼びかけた。売上げアップにつながった店を例に、多くのお金をかけずに、ちょっとした工夫で経営力強化につながることを理事長自ら自信をもって語る。また、これまで大型店に頼りきりであったイベントも連合会が主体となって開催するようになった。市民グループとも良好な関係を構築し、マップ作成など商店街活動をサポートしてもらっている。現在、大衆演劇場(豊富座)を核とした商店街活性化に向け、アーケード入り口に芝居小屋をイメージした装飾を施し、通り一帯には歌舞伎幕や提灯を飾り、回遊性を高めるために歩道には役者の手形を押したブロックを各所に配するなど通り一帯を大衆演劇色で染めるといった構想を持っており、今後、商店街関係者等とともに、検討・具体化していく。「通りのコンセプトを明確に打ち出し、全国にも例のない大衆演劇ストリートとしてお客さんを呼び込みたい」と熱意をもって取り組んでいる、多くの会員を率いる、柳ヶ瀬商店街の牽引者、まとめ役を担う人物である。

市民の交流の場となる 「まちひとぶら座かんかこかん」!!

！ここがポイント

地域の力を得て、子育て支援・交流の場や商店街、NPO、市民グループの交流・育成の場として、コミュニティ機能の役割を果たしている。



高山市商店街

【取り組みの背景】

「増える空き店舗の効果的な利用方法」、「少子高齢化社会への適切な対応」、「福祉観光都市として、全国に誇れるバリアフリーの街づくりの実現」といった諸課題に対応することを目的に、高山市商店街振興組合連合会が中心となり、行政・NPO団体や市民グループと協働して、子育て支援や情報発信、市民の交流の場となる「まちひとぶら座かんかこかん」を、商店街の拠点として空き店舗の活用により設置することとなった。

【取り組みの概要・経過】

「まちひとぶら座かんかこかん」は、高山市商店街振興組合連合会が中心となり、行政・NPO団体や市民グループと協力して運営することにより、子育て支援や情報発信、交流の場として定着している。また、買い物客や観光時における、児童の一時預かりといった各種コミュニティビジネスの試みがなされるなど、まちのコミュニティ機能を担う、商店街の新たな取り組みとして実績をあげている。

「かんかこかん」の3つの柱。

①『こどもひろば』

- ・子どもたちの交流スペースとして利用されている。（厚生労働省・つどいの広場事業の支援あり）
- ・“みんなで子育て！”を信条に、赤ちゃんから、こども、お母さん、お父さん、おばあちゃんまで、いろいろな年代の人が交流。小学生も放課後や土日に集う。日本の昔遊び（折り紙、こま回し、羽根つきなど）を、スタッフと一緒にやっていることも多い。
- ・「食育のはなし」、「乳幼児教室」、「ベビーマッサージ」などの講座を随時開催。
- ・観光客の授乳や、おむつ換えの場所としても重宝されている。

②『まちのくらし情報ひろば』

・生活情報から観光情報までを発信する、「まちの大きな掲示板」のようなところ。有料でインターネットもできるようになっており、一般市民、観光客、外国の方々によく利用されている。

・「金曜野菜市」開催：有機栽培の野菜販売
・電動カー、車椅子、ベビーカーの貸し出し

③『まちづくりひろば』（主に2階のスペース）

・講習会、講演会、寺子屋かんかこかん、各種会合などに利用されている。
・様々なまちづくりに関わる市民活動グループや団体の交流拠点。市民活動グループのつなぎ役としての組織「飛騨まちづくり本舗」が、「まちづくり通信」の発行や協働イベントの提案・企画コーディネートなどを行っている。

【取り組みの効果】

市民の子育て交流の場となるだけでなく、商店街とNPO・市民ボランティアの育成・交流の場としても定着。若い子連れのお母さんの利用が多くなり、商店街のイベントにも参加していただけるようになった。また、買物や観光時における児童の一時預かりといった各種コミュニティビジネスの試みがなされるなど、まちのコミュニティ機能を担う商店街の新たな取り組みとして実績をあげている。年間約45,000人に利用されている。

また、インターネットを利用するなど、海外の観光客が増えている。子連れの観光客も多い。

【今後の課題など】

高山市からの委託費や、補助金がなくなった後の運営費の捻出をどうするか。利用者をさらに増やす取組も必要。

【高山市商店街振興組合連合会】

所在地：岐阜県高山市

会員数：10振興組合

店舗数：345店舗

URL:<http://www.takayamasishouren.net/>

【この商店街にこの人あり】



中田専太郎（左）

（高山市商店街振興組合連合会理事長）

伊藤早苗（右）

（かんかこかん運営委員長）

「かんかこかん」を市商連の事業とし、市民と商店街と行政との協働による取組を支え、地域ぐるみで取り組むまちづくりの重要な担い手である。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街・行政・NPO団体・市民グループが、協力してまちづくりを行っている。



市民の交流の場

「まちひとづら座かんかこかん」

学生や福祉団体等と連携した地域に根ざした 「縁側的な商店街づくり」!!

！ここがポイント

多様な主体と連携をし、コミュニティ機能の役割を果たすとともに、シンボルマークの作成・活用により、商店街のブランド化を図っている。



障害者も使いやすい店舗づくりの打ち合わせをする学生たち

【取り組みの背景】

商店街が低迷の状況にある中、平成16年度に近接する名古屋市立大学から商標作成など商店街活性化に向けての事業提案がなされ、これを機に同大学との本格的な連携が始まった。

あわせて平成17年度に、名古屋市の支援を受けて商店街再生コンセプトを策定。地域の高齢化率が高く、障害者福祉施設が多く立地している地域特性も踏まえ、「商学連携により地域ブランドをつくりだす」とことと、「地域の困った問題を解決するビジネスを地域住民と展開する」ことをめざす姿として、「地域に根ざした“縁側的な商店街づくり”」をテーマに取組みを開始した。

【取り組みの概要・経過】

○シンボルマーク「さくらっぴー」の作成

大学からの提案に基づき平成17年度、学生たちと一緒に商店街シンボルマークの作成に取り組んだ。地域を中心に広く原画を公募し、商店街や学生などで審査して完成させた。シンボルマークは平成18年秋に商標登録し、また、名称を一般公募して「さくらっぴー」と命名。イルミネーションやマップなどに活用している。

○商店街優良店舗審査事業

同じく市立大学のアイデアにより、平成17年度から毎年度、優良店舗審査事業を行っている。学生や地域住民で構成する審査会により、サービスや接客、環境や地域への貢献などの視点で各店舗を審査。合格店にはシンボルマークがデザインされた認証状が交付され、店舗に掲示されている。

○学生や団体と連携した空き店舗活用事業

平成19年度からは、市立大学や地域の障害者自立支援施設、シルバー人材センターなどと協議会を組織し、空き店舗活用の取組みを開始。だれもが気軽に立ち寄れる縁側的な空間づくりをコンセプトに、平成19年11月、駄菓子や障害者の作品を販売する店「さくらやまーけっと」をオープンした。

店舗レイアウトは学生が担当。車いすの方や高

齢者も利用しやすい店舗とするため障害者用トイレも設置した。

平成20年度からは椋山女学園大学、長野県木祖村が協議会に参加。新たにカフェや木祖村のアンテナショップ、多目的スペースを設置するなど内容を大幅に拡充し、20年11月にリニューアルオープンした。



「さくらやま-けっと」リニューアルオープン

【取り組みの効果】

大学や地域団体との連携によりアイデアに富んだ各種事業が生まれ、計画的、継続的な事業の実施が可能となり、マスコミにもたびたび取り上げられるようになった。

縁側的な空間づくりとして始めた商店街の店「さくらやま-けっと」には、親子連れや学生、高齢者を中心に幅広い年代が来客し、リピーターも増えてきている。

【今後の課題など】

商店街シンボルマークの一層の活用としてオリジナル商品や逸品を開発し、桜山のイメージや個性を一層高めていきたい。

また、高齢者や子育て支援など地域の課題に対応した新たな事業を創出し、これを「さくらやま-けっと」でモデル的に実践するとともに他の店舗へも普及を図り、商店街全体の活性化につなげていきたい。

【桜山商店街振興組合】

所在地：愛知県名古屋市

会員数：28名

店舗数：28店舗

商店街の類型：生活支援型商店街

URL: <http://www.sakurayama.net/>

【この商店街にこの人あり】



土谷光男 理事長（左）

商店街の活性化をめざし「さくらやま-けっと」の運営をはじめ商店街の各種事業運営に尽力している。



岩田茂春 事業部長（右）

組合きってのアイデアマンで、学生との共同イベントや商品開発など、新しい企画を次々と生み出している。

【うちの商店街、ここが自慢】

・商店街シンボルマークは名古屋市立大学との連携により作成したもので、商標登録している。



シンボルマーク「さくらっぴー」

- ・大学や地域団体と協議会を組織して毎月定例会を開催し、事業の企画運営を行っている。
- ・協議会メンバーの障害者のニーズにこたえ、商店街の店「さくらやま-けっと」において働く場を提供している。

「やろまい!」からの街づくり ～空き店舗を埋めよまい!!～

! ここがポイント

空き店舗に多様な店舗を誘致、新たなコミュニティを育む商店街。



商店街正面入口

【取り組みの背景】

全国有数の「繊維の街」一宮市で、真清田神社の門前町として発展した本町商店街（本町通1丁目、2丁目、3丁目、4丁目商店街振興組合）は、昭和31年に日本最長のアーケードを設置した。これを契機にスタートした「一宮七夕まつり」が日本三大七夕と称される祭りになり、そのメイン会場になっている。しかし、近年は繊維業の衰退や大規模小売店の郊外移転による人通りの減少、後継者不足等による空き店舗の増加から、街の活気が徐々に失われていった。このことを危機に感じた商店街の有志が、「一つ一つ出来ることに取り組み、かつての賑わいを取り戻すんだ!」という気持ちを集めて、みんなで「やろまい（地元の方で“やりましょう・やるしかない”の意）」の気運を生んだ。

【取り組みの概要・経過】

最大のイベント「一宮七夕まつり」だけではなく、年間を通じて集客できる活性化を模索する中、毎年4月の第3土・日に開催するイベント「やろまい」の実施に至った。地元の短大、高校、幼稚園、聾学校、国際交流協会、青年会議所など、多数の地元団体の出店や出演（総勢1,500人超）による多彩なステージがメインの大規模イベントである。



イベント「やろまい」

次に、空き店舗の増加を食い止めるため、空き店舗の活用に取り組み始めた。平成18年7月にスペース貸し店舗とボックスショップとして商店街が運営する「ほんまちサンブラザ」を開設。平成19年度からは、空き店舗活用補助金の充実について行政と連携をとりながら、様々な店舗・団体の誘致を実施している。平成19年7月に開設したコミュニティーハウス「ちゃら

ん家」は、商店主有志がまちづくり会社を設立して運営し、料理自慢の主婦が日替わりで提供するランチが人気になっている。その他にも NPO が発達障がい理解の講座や座談会、寄席などを開催するコミュニティ施設や、鉄道愛好家による鉄道模型カフェなどが次々と開設されている。このような多様な店舗・施設を誘致することで、今までに商店街を訪れることのなかった人々が商店街を訪れるようになり、新たな繋がりが生まれ、新たなコミュニティを創出している。

■空き店舗活用事業



コミュニティハウス「ちゃらん家」

【取り組みの効果】

商店街を活性化するため、商業者自らが空き店舗を解消しようと活動する中で、商店街に魅力ある店舗や施設が開設され、賑わいが創出されている。また市民団体などと連携が生まれたことで、商店街の取り組みの幅が広がり、従来とは違った顧客層が訪れるようになった。

【今後の課題など】

空き店舗活用を推進するためには、単に誘致するだけでなく、テナントミックスの考え方が必要になってくる。商店街の方向性をしっかりと持ちながら事業を進めていく必要がある。

【一宮市本町商店街】

所在地：愛知県一宮市

会員数：4 商店街 127 名

商店街の類型：近隣型商店街

【この商店街にこの人あり】



安藤 元二

（一宮市本町商店街会長）

（一宮本町通3丁目商店街振興組合 理事長）

（㈱ちゃらんけシステム監査役）

本町商店街の真の活性化を願い、商店街関係者をとりまとめ、牽引する重要な役割を担っている。

【うちの商店街、ここが自慢】

商店街の空き店舗が魅力ある施設や店舗に様変わり。

主な空き店舗活用事業：

・「ほんまちサンプルザ」

ボックスショップ

・コミュニティハウス「ちゃらん家」

ワンディシェフシステムの導入

・「鉄道模型カフェ浪漫」

店内にジオラマ模型を置くカフェ

・「reno」

発達障がい理解の講座や座談会、上方落語家の寄席の開催

伝統ある「八日朝市」で賑わい創出、 景観整備等により来街者にやさしい 「歩いて楽しい」街づくり!!

！ここがポイント

景観、歩行環境の徹底した整備により、まちの魅力を向上。



【取り組みの背景】

挙母神社の参道として商店が集積されてきた、豊田市駅から程近い中心市街地に位置する商店街である。しかしながら、伝統ある挙母神社「八日市」の主会場が30年前に参道（商店街）から境内に移り、モータリゼーションの進展等により歩行者通行量が減少するとともに空き店舗も生じ、商店街の活性化が必要となっていた。このため、『下町の歴史と情緒』『老舗商店街としての伝統と信頼』を大切にし、将来に向けてこだわりのある商品とサービスを提供し続ける商店街」をコンセプトとし、ファサード整備等の活性化に向けた事業に取組始めた。

【取り組みの概要・経過】

20年前にアーケード撤去、電線地中化を行い、更なる特徴づくりと歩いて楽しいまちづくりを目指し、平成17年度に桜のデザインをあしらった商店街名の入った統一看板や統一のロゴ、デザインのタペストリー設置など徹底した景観整備を実施している。

○歩車道の段差を解消したバリアフリー化

車道には車の速度を抑えるため、一部歩道と同一の石畳みや店舗を遮断しない低い植栽とするなど、高齢者や子供にとっても歩きやすい快適な歩行環境を創出。（市事業；商店街は道路整備を考える協議会の一員として参加）

○桜をモチーフにしたファサード

商店街の名称から桜をイメージしたデザインで各店舗が統一した装飾を行なうとともに、民家も駐車場ゲートの装飾を統一するなどしたファサード整備をし、来街者の目を楽しませている。

○清掃活動と花飾り

商店街婦人部による清掃活動やフラワーポット設置による花飾りに取り組んでおり、季節や色彩などテーマを決めて年3回フラワーポットの植え替えを行うことにより、商店街を歩く楽しみを一層高めている。

○定期の朝市

毎月開催される挙母神社「八日市」に合わせ商店街の各店頭で行なうワゴン販売では、地産地消にこだわり地元農家やシルバー人材センター等と連携し、産直野菜・くだもの、薬草入り五平餅、漬物、フラワーポットなどの販売を行う「八日朝市」を開催している。加えて、四季折々のお菓子の振る舞い（無料）やベンチの設置などによるお客様へのおもてなしにより、商店街への集客とお客様との交流を促進している。

【取り組みの効果】

ファサード整備により街の景観が著しく向上し商圈が拡大するとともに、来客数も増加している。売り上げが整備前の1.5倍になったという店舗もある。もともと商店街には生活必需品を扱う店が多く、商圈が広いので効果が大きい。また、ファサード整備に伴う個店の改装により、街全体に高級感を醸し出し顧客を誘引する魅力がアップした。出店者の引き合いも来ており「桜町本通り商店街」のブランド力が向上した。

「八日朝市」は、農産物を生産者が直接販売することで消費者の食の安全思考をくすぐり売り上げを伸ばしており、商店街の賑わいを演出している。



【今後の課題など】

毎月、挙母神社で開催される八日市には平均7千人の来場者があるが、そのうち当商店街を通過して会場に向かう人数は2千人程度である。今後は、商店街へ一層の客を誘導する工夫が必要。また、日常の来街者数が八日市の時と比較すると極端に少ないため、各個店の魅力向上やメリハリのあるイベント展開などの取組が必要。

【桜町本通り商店街振興組合】

所在地：愛知県豊田市

会員数：23名

店舗数：23店舗

商店街の類型：地域貢献型商店街

【この商店街にこの人あり】



市古 信 代表理事（中央）

前理事長と一緒に八日市の継続やまちなみ景観の整備等に日々奔走している。

鈴木 万衛 副理事（右）

前理事長。商店街組合員を引っ張り、ファサード整備を実施。

中井 久美（左）

豊田まちづくり㈱地域事業部リーダー。八日朝市の開催支援など、商店街を全面的にバックアップしている。

【うちの商店街、ここが自慢】

桜をモチーフとしたファサードをはじめ徹底した景観づくりや歩行環境の整備により、高齢者や子供たちにとっても快適で歩いて楽しい空間となっている。

四日市商店街から「夢」、 「好奇心」、「遊び」の世界へ!!

! ここがポイント

子供にとっての社会体験の場の創出により、商店街が地域コミュニティの役割を担うとともに、商店街活動に参加しにくい、夜の飲食店たちが顧客確保、個店の利益につながるよう工夫した、話題を呼ぶ、特徴的な取り組みを行なっている。



「こども四日市」の様子

【取り組みの背景】

四日市駅周辺の大規模店撤退等により、中心市街地の賑わいに陰りが見えてきた中、イベントに偏った商店街活性化策に限界を感じ、個店の魅力づくりや個店を強化するために、「おもてなし通信」を発行し、やる気のある商店の紹介や、商店街の隠れたスポット等、商店街の魅力を地域に発信。

更に、個店の販売力を強化する事業も実施したいと、全国のユニークな取組事例等にアンテナをはり、商店街での新たな取り組みを模索してきた。

【取り組みの概要・経過】

○子供に経済概念を学ばせ、生きた勉強ができる「こども

も四日市」：ドイツのミュンヘン市で始まったミニ・ミュンヘン（※）をモデルに地元の商店街でイベントとして展開。子供たちが、地域通貨「ヨー」を使って、商店街及びその周辺での労働体験と社会勉強できる場を設けた。子供たちは、掃除、ファッションモデル、新聞記者などの仕事の対価として、通貨を獲得、フリーマーケットや屋台で買い物できるというものである。

○普段、商店街活動に参加しにくい夜の飲食店が一丸となって、「はしご酒スタンプラリー」を実施。鳥取県倉吉の商店街の取組を参考にした。参加者は、3,000円の前売券を購入し、当日受付で指定された3店舗をはしごできる仕掛けである。参加店は、1ドリンクと1品付け出しを用意する。明瞭会計、安価な料金設定であることから利用しやすい。個店の利用を促すとともに、個店（参加店）も新しい顧客の獲得につながることで、店舗の参加意欲も高まる。

※ミニ・ミュンヘン：7歳から15歳までのこどもだけが運営する「小さな都市」。8月の夏休み期間3週間だけ誕生する仮設都市で、すでに20年の歴史がある。

○商店街の枠組みを超えた取組「得々商店街」：やる気のありそうな商店主に声をかけて集まった飲食、服飾、雑貨、仏具など様々な店主が、「得々商店街」として、

商店街通信「おもてなし」を発行し、店のお買得情報やサービス券などを掲載することにより、来店を促す工夫をしている。



商店街通信「おもてなし」

【取り組みの効果】

こども四日市には、地元の子供たちだけではなく、隣の愛知県からも参加があり、非常に人気の高いイベントとなっている。

はしご酒スタンプラリーでは、参加者が3,000円で、新しいお店の魅力を発見できるとともに、参加店も新規顧客の獲得につながるメリットを生み出している。

いち早く地元で展開した、「こども四日市」や「はしご酒スタンプラリー」は、他地域の商店街の先進事例として、参考になっており、東海地域でも複数の商店街が、四日市を参考にして、はしご酒イベントに取り組んでいる。

また、商店街通信「おもてなし」を見たお客様からは商店街に親しみが持てるようになったとの高評価も受けている。

【今後の課題など】

商店街の活性化にとどまらず、子育て、防犯、まちの再開発などまちづくりの視点で地域を見直し、地域を巻き込んで様々な“コト”を起こし、発展していくことが期待される。

【四日市諏訪西商店街振興組合】

所在地：三重県四日市市

会員数：138名

商店街の類型：広域型商店街

URL:<http://www.pazl-land.com/>

【この商店街にこの人あり】



野村 愛一郎

(四日市諏訪西商店街振興組合副理事長)

従来の商店街組織にとらわれず、四日市で「やる気」を持った商店約40店舗による「得々商店街」を立ち上げた中心人物。「得々商店街」では、来店者をおもてなしする基本ルール「おもてなし八か条」を作成・実践し、こだわりの逸品や心づくしの逸品を提供。

「こども四日市」や「はしご酒スタンプラリー」の開催など全国に先駆け、商店街で目新しい事業を導入するなど、商店街活性化へと導く牽引役を担う人物である。

【うちの商店街、ここが自慢】

- ・ まちなかにこどものまちが誕生する「こども四日市」
- ・ 夜の飲食店たちが共同で取り組む「はしご酒スタンプラリー」。

「ユニバーサルデザインのまちづくり宣言」をきっかけに 福祉に取り組む商店街!!

！ここがポイント

社会的弱者にやさしい商店街を目指し、地域住民等へ福祉への理解を広げつつ、福祉事業に重点的に取り組み、福祉に取り組む商店街として定着を図っている。



「夜店でにぎわう伊勢高柳商店街」

【取り組みの背景】

中心商店街が衰退・疲弊するなか、商店街の生き残りを考える折、時代の要請にあった「福祉の商店街」づくりが不可欠と考えた。商店街には「大きな柳」がある。それが高柳の商店街の名の由来でもある。福祉の商店街・バリアフリーの商店街の象徴として、その柳を「福柳」と呼んだ。いろいろな議論や合意形成を経て、20世紀の街から、21世紀の「福祉のまち」「バリアフリーのまち」の始動が始まったのが「平成15年」である。以降、一貫して「福祉」「福々」をビジョンのテーマとして取り組んできた。

【取り組みの概要・経過】

地域住民、生活者、来街者に、福祉への理解を広げつつ、少子・高齢社会の中で、商店街の在り方を模索する中、「ぎらくにどうぞ」のステッカー、「ふくふくまつり」、「ふくふくカード」事業など、福祉に注力した商店街活動を展開している。

- 平成15年2月、バリアフリーの体験セミナーを実施、同年8月、当時では全国でも珍しく商店街の一角にケアセンター開設、16年8月、障害者支援センターが相次いでオープン。それをきっかけとして「ユニバーサルデザインのまちづくり宣言」をした。
- 平成17年3月、高柳児童公園（商店街隣接）のバリアフリー化、多目的トイレの工事が完成。
- 商店街では、大正時代から「高柳の夜店」を90回以上開催、それに「福祉のまち」というイメージが加わり、広がりを見せつつある。夜店では、平成17年の市町村合併を契機に、平成18年には、合併した旧町村の祭りや行事を紹介し、互いに意識合い、資源の有効活用を育むため「町村の日」をつくり交流を図った。「二見（ふたみ）町の日」には二見太鼓やシーパラダイスのアシカショーが、「御蘭（みその）の日」には手筒花火が行われ、平成20年は

さらに交流地域を広げ、「津市の日」には津市の観光や特産品のPR、県の無形民俗文化財「唐人おどり」を商店街路上で披露するなど、商店街が主導となり周辺9市町村・地域を巻き込んだ取組を展開。これにより、伊勢市だけではなく広域な認知度も高まり風物詩的な観光スポットの一つにもなっている。また、商店街の近くにかつて流れていた清川に因んで、新しく「清川太鼓」と言う地元の中学校の先生や、町内会を巻き込んだグループやコミュニティもできてきた。

○ 福祉に関する具体的な取組みとして、「きらくにどうぞ」のステッカーを店舗に貼り、車いすの目線で商品を置いたり、誰でも安心して買い物ができるよう配慮している。また、「ふくふくまつり」（平成16年～）を開催し、「ふくふくカード」事業を立上げ（平成19年12月）、60歳以上の人や18歳未満の子供を育てている家族を対象に商店街が発行する「ふくふくカード」を配布。加盟店では、割引、プレゼント、トイレ提供や介護サービスが受けられるなど来街者へ便宜を図っている。



ふくふくまつり

【取り組みの効果】

ソフト、ハード面において、「ユニバーサルデザインのまち」のイメージが定着し、ユニバーサルデザインに配慮した商店街として定着しつつある。

【今後の課題など】

持続的な事業としていくため、更に新しいアイデアをつぎ込み続ける知恵とマンパワー、人材育成が不可欠である。

【伊勢高柳商店街振興組合】

所在地：三重県伊勢市

会員数：66名

店舗数：56店舗

商店街の類型：近隣型商店街

URL:<http://www6.ocn.ne.jp/~esupoa/>

【この商店街にこの人あり】



橘 正志 理事長

強いリーダーシップで商店街内部のみでなく、外部や市民や地域住民間の合意形成を積み上げ、商店街のビジョンを示しつつ、様々なアイデアを具体的な形として実現させて来た。同時に、常に次世代を担う人たちにも課題を与えながら、人材の育成にも配慮し、その人柄は心温まる優しさがあり信頼を集めている。現在、「商店街まるごと博物館」を含めた、市の「伊勢市全市博物館構想」を推進するまちづくりリーダー。

【うちの商店街、ここが自慢】

この商店街は大正時代より90回以上続く伝統的な夏の「夜店」が有名で、伊勢市はもとより周辺郡部を含む広域において「夏の風物詩」となっている。誰もが気楽に訪れてほしいと、「きらくにどうぞ」のステッカーを貼る店舗が並ぶ。車椅子で入れるトイレを近隣含め4箇所に設置しており、気楽に買い物ができる商店街。